



「不屈」
No.588付録
高知版No.433
2023.6.15
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部
発行責任者 一幸
森岡 TEL・FAX
088-841-0075

国賠同盟高知県本部

第38回総会決議案書

第37回総会以降の活動

昨年は第40回全国大会が開かれ、大会に向け「2万人の同盟実現特別期間」を取り組みました。期間は4カ月で3名の入会、7



昨年の第37回総会の様子

月には「伊藤千代子」上映会で4名の入会者を迎えることができました。

この一年コロナの収束が見えない中、22平和映画祭(7月3日)と(1月8日)に「わが青春つきるとも」を2回上映しました。第1回は291名、第2回は102名の方が映画鑑賞をしました。

顕彰活動は横村浩・生誕祭(6月1日)、命日墓前清掃(9月3日)を行いました。終戦記念集会で「不戦の誓いをあらたにするための」中央ピラを参加者、通行人に配布しました。

情勢

4年ぶりの一斉地方選挙は、野党共同の分断に

阻まれ十分な成果を上げることができず、与党と維新の会などの前進を許した。今後立憲野党勢力の前進と共闘の構築が課題となる。高知県内では県議会議員選挙で野党と市民の共同の取り組みが行われ、土佐清水市と南国市で共同候補が当選、共産党は6人全員が当選した。

岸田内閣は、昨年12月安保関連三文書を閣議決定し、戦争する国への転換を推し進めた。これまでの「専守防衛」政策ではできないとされてきた「敵基地攻撃能力」をはじめ、GD P比2割の軍事費の確保はアメリカ、中国に続いて世界第3位の軍事大国と

第38回総会(案内)
日時 7月15日(土)
午後2時~4時
場所 平和資料館・草の家

なり、平和国家から地域の脅威となる。軍事費確保のために、社会保障や教育費の削減、震災復興財源の取り崩しなど国民生活への影響は必至であり、増税や国債発行なども計画されている。

昨年ロシアがウクライナに侵攻し、多くの国民が犠牲となり、八百万人も国民が難民となって国外に逃れた。この報道を受けて日本の軍事化を進める世論づくりが行われているが、平和は軍事拡大ではつukれない。戦争を憎み、あの暗黒社会を許さないために闘ってきた私たち同盟は、多くの仲間と手を結んで運動を広げていく。

核兵器禁止条約は2021年に発効し、昨年ウイーンで締約国会議が開かれた。日本政府は不参加であるが、参加せよとの世論を高め、今年の締約国会議にはオブザーバーでも参加するよう求める。G7サミットは、被爆地広

島からの核廃絶の呼びかけとはならず、核抑止力を認め、核兵器禁止条約にも触れない宣言で終わらした。

組織の拡大強化
会員拡大()名
退会者()名

特別期間の取り組み、上映会場での入会を合わせて7名が加入されました。新しい戦前を思い出させる今、同盟が目指す戦争と暗黒政治を許さない運動が加入に繋がったと考えます。

この間、退会が入会を上回り現勢後退です。主要因として本人死亡、高齢に伴い家族からの申し出等となっています。全国の経験では「伊藤千代子」上映会をきっかけに入会者が増加しています。県本部が行った上映会でも入会者が生まれました。この経験を活かし会員減少に歯止めをかけましょう。

須崎・佐川地域の支部建設は伊藤千代子上映を打診しましたが、上映に至らず課題は次年度送りになりました。

国会請願署名

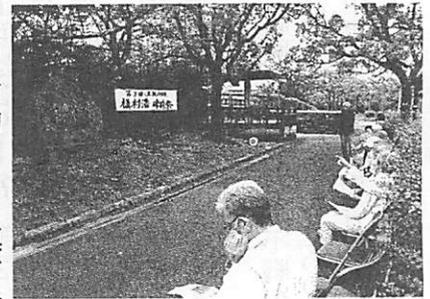
最終集約

個人署名「一筆
団体署名」一筆

国会請願は5月16日、県本部は中央本部に一任し、郵送で署名を送り届けました。

署名数はコロナ禍以降、団体・個人への要請が弱まり1000筆を割り込んでいます。その打開策として昨年は返信封筒に切手を同封し要請を行いました。合わせて機関紙「不屈」にお願い文を出し返信は例年に比較して少し増加となっています。

今後、目標達成に向け会員一人々から5筆、10筆に協力いただく事が大切になっていきます
治安維持法犠牲者を顕彰する活動



主な活動として榎村浩の顕彰を行っています。
生誕祭 6月1日

命日墓前清掃 9月3日
県内には知られていない多くの犠牲者がいます。その発掘をどう進めるか課題です。県本部が関わった出版物は2010年発行の「特高の弾圧に抗した記録」が最後です。出版物の活用と見直しが求められています。

地方議会意見書採択

自治体要請が出来ずに終わりました。過去の可決自治体を検証し、今後の地方議会採択を目指さなければなりません。

財政・機関紙

会費は組織を支える大事な役割を持っています。引き続き納入向上を目指します。

機関紙は毎月発行を続けています。定期発行を続ける為に複数の担当者による編集体制の確立が課題です。

第38回総会方針

岸田政権は歴代内閣が建前としてきた専守防衛を投げ捨て、敵基地攻撃能力と大軍拡に突き進んでいます。新しい戦前「戦争をする国づくり」を許さない取り組みが急務となっています。

県本部は広く市民に呼びかけ、今こそ同盟の出番として平和と民主主義の政治、憲法をくらしに生かす政治実現をめざします。

組織の拡大強化

会員数300名の県本部を目指します。全国の教訓に学び支部組織を強

化します。

治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を要求する国会請願活動
個人署名 4000筆
団体署名 300筆

を県目標とし、支部別目標は昨年度目標と同じとします。
国会請願は同盟のもっとも重要な活動の一つです。達成に向けて団体への要請、署名協力者を増やすことに努めます。

治安維持法犠牲者を顕彰する活動
戦前、主権在民・侵略戦争反対・平和を守るために生命を懸けて不屈に闘った人たちの顕彰活動に取り組みます。

県本部発行書籍の活用、新たな犠牲者発掘調査を行い、全国的名簿作成に協力します。

地方議会意見書採択

専門部会を開催し、意見書採択に向けて自治体

要請を行います。

財政・機関紙
引き続き会費納入向上をめざします。機関紙は定期発行を維持します。

女性部

①活動報告
コロナ禍の間をぬって2回のランチ会をしました。もっとも女性部としての活動を広げ、仲間をふやす活動にしていきたいと論議しました。

「伊藤千代子」映画上映は女性部として成功に向け積極的に取り組みました。

「不屈」女性部コーナーへの投稿が続いています。ランチ会と共に交流の場として活動を充実させ続けていきます。

全国女性交流集会に2名が参加しました。

②活動計画

女性部総会をひらく
ランチ会を高知市中心に続けながら、県内各地域で取組みます。

・女性の犠牲者の顕彰活動を行います。
 ・全国女性交流会に代表を2名派遣します。
 ・学び、つながる、発信する女性部をめざしていきます。

青年部

①活動報告

2022年には、地方選挙や参議院選挙があり、治安維持法犠牲者への謝罪と賠償活動への支援を呼びかければ良かったが、時間の都合上叶わなかった。しかしながら、戦争とその準備に関わる動きに反対する議員を個々に応援することはできた。

新たな署名用紙の制作を行ったものの、その活用には至っていない。

全体の報告にもあるように、青年支部のメンバーが県版不屈に寄稿し、評価も受けている。しかしながら個人の力によるところが大きい。

①活動方針

新しい署名用紙を用い

るなどして、広く世論へ訴え支持を広げることが目指していく。
 県版不屈への原稿作成を通じて、他のメンバーも

楽しみな「獅子の見た夢」後編

原作のサブタイトルにある「八田元夫」は、戦前・戦後に活躍した演出家だ。大正デモクラシーに花開いた「新劇（歌舞伎等の伝統芸能とは一線を画す近代的な演劇。民衆の思想性が反映されている作品も多かった）」が昭和の暗黒政治に蹂躪される時代を生きた人物である。

前号では八田が検挙・投獄された1932年まで解説した。その後、の演劇人たちが辿った紆余曲折を本公演のストーリーと併せて簡単に解説したい。権力による各分野への抑圧が強まる中、多くの劇団は「転向」を余儀なくされ、八



歴史の検証を深めていってほしい。
 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、集会などの開催を検討する。

田ら関わった新築地劇団にもその矛が突き付けられた。1934年、弾圧の中で経営難に喘ぐ同劇団に「海軍省がバックにいる大手映画会社と契約するか否か」の選択が迫られたのである。

契約すれば劇団は助かるが、戦争費美の作品に加担せねばならない。そこで、八田と丸山は奇策に出た。別の映画会社から丸山の契約金1年分を前払いしてもらい、その金を大手映画会社に払うことで、契約をなかつたことにさせたのである。これにより、丸山は一年間の無償労働を余儀

なくされたが、軍国主義への「片棒担ぎ」を防ぐことができた。

しかし、日本の戦争はますます泥沼となり、1933年には日中戦争が勃発する。この年の10月、丸山の先輩である俳優・友田恭助が中国で戦死した。この死は、当時の大本営発表により美化され、権力があれほど目の敵にしていた劇団の俳優は、一夜にして「軍神」としてプロパガンダ利用された。そして、アジア・太平洋戦争が勃発する1年前の1940年

3月、八田と丸山は、劇作家・三好十郎とともに戯曲「浮標（ふい）」に挑む。『獅子の見た夢』は、前述のとおり、この三人が基軸として描かれる。こうして八田たちが権力に抗いながらも新たな挑戦をしていく中、同年8月、大事件が起こった。百数十人の演劇関係者が、一斉に検挙されたのである。八田たちも捕縛され、多くの新劇団は「自発的解散」の名のもとにほぼ壊滅させられた。政治結社でもない演劇

人たちが逮捕された理由は、治安維持法の「目的遂行罪（特定の結社や非合法な党に所属していなくとも、それらの目的に寄与する行動を罰することができる）」にあった。だが、この弾圧を丸山は生き延び、1942年に「苦楽座」を設立する。戦争賛美作品しか作れなくなつた演劇人や映画人たちが「どんなに小さくても、自分たちが思うような芝居をしよう」と結成した劇団である。その2カ月後、八田は実刑を免れるが同時に治安維持法に基づいた「保護監護処分」が下された。これは、八田に少しでも不穏な動きがあると判断されれば、検事の請求だけで逮捕できる。「実質的な終身拘禁」である。このように日本軍国主義の猛威が国内にも吹き荒れる中、八田や丸山はどのような決断をしていくのだろうか。それは、ぜひとも作品を見ていただきたい。タイトルの『獅子の見た夢』の意味にも注目頂ければ幸いである。（森本琢磨）

榎村浩生誕111年

歌碑を見て思い出す 間島を訪ねた旅

4年に一度の統一地方選挙と重なった年に、第3回目となる榎村浩の生誕祭が開かれました。治安維持法で弾圧され、過酷

な拷問による犠牲者の一人です。1938年9月3日土佐市民病院で死去しました。26才でした。その生い立ちは、地元新聞に取り上げられる「神童」と呼ばれる幼少期を経て、飛び級で中学校に入學しています。県立海南学校(小津高校)に転校となり、この頃「資本論」やマルクス主義文献を読破し「戦旗」の読者となっていました。



高知市の城西公園西側にある榎村浩の歌碑で生誕祭

この海南学校は軍人教育に力を入れていた学校で、教練に反対する運動を起こして岡山市の関西中学校に転校とな

りました。

卒業後は高知に帰郷し、日本プロレタリア作家同盟高知支部を結成します。共産青年同盟に入り朝倉歩兵第四十四連隊の上海出兵反対運動を組織しました。この時期に「出征」「間島パルチザンの歌」など、反戦長編詩を発表しています。

1932年治安維持法違反で検挙され、3年の実刑判決を受け服役しましたが、非転向で出獄しますが、拷問と獄中生活で拘禁性躁鬱病、食道狭窄症を患い、その後の検挙で病氣釈放となりますが、回復せず病死となっています。今、目前の石碑に刻まれている間島パルチザンの歌の一節を見る度に思いが高鳴ります。榎村浩生誕100周年記念行事の一つ、間島を訪ねる旅に参加した事を、4日間でしたが、間島の地を巡ってきました。広々とした満州の国土の中でパルチザン闘

争が詩歌から蘇ってきます。拷問部屋で殺された人々、殺戮の犠牲者の思いが伝わってくる展示も観ることが出来ました。

今、新しい戦前と言われる状況に、同盟の果たすべき役割は大変大きいものがあると考えます。アメリカ

5月幹事会報告

四国ブロック集会(高知担当)は 9月9日〜10日に高知城ホールで

☆同盟員 260名

☆署名

(個人) 612筆

(団体) 4筆

☆県本部総会議案審議

幹事会に議案が準備できず、予備日5月24日に審議しました。

今月号に議案を掲載します(一〜三面)。会員の皆様ご意見をお願いします

7月幹事会

日時 7月8日(土)

13時〜

場所 平和資料館
・草の家

力と一体に戦争をする軍事大団に突き進む政権及び補完勢力をこのまま許していいのか、今が正念場だと考えます。国政選挙も近いと言われています。色々と考えさせられる一日でした。

(森岡幸一)

す。あわせて総会へのご参加をよろしく願います。

☆四国ブロック集会

(高知担当)

日程 9月9日〜10日

場所 高知城ホール

計画案は高知県本部で提案します。

○編集後記

会期末の国会で野党案丸のみで急いで成立させた入管法改正案や、LGBT法案に地元紙も懸念を表明。人権意識の欠落している与党は悲惨。(M)